

## トピック展「県の石—埼玉県の岩石・鉱物・化石—」

(会期:令和5年6月20日～10月15日)

高橋美織

令和5年6月20日から10月15日までトピック展「県の石—埼玉県の岩石・鉱物・化石—」を開催しています。

平成28(2016)年5月10日「地質の日」に、日本地質学会は全国47都道府県に特徴的な岩石・鉱物・化石を選定し、「県の石」として発表しました。日本地質学会ホームページによれば、県の石を通して、一般市民の方々に大地の性質や成り立ちに関心を持ち、大地とうまく付き合っていくことができるようになることを目指したものです。埼玉県の県の石は、岩石が「片岩」、鉱物が「スチルプノメレン」、化石が「パレオパラドキシア」です。それぞれの特徴を紹介します。

## 埼玉県の岩石「片岩」

「片岩」は、長瀬の岩畳や嵐山溪谷などで見られる変成岩です。片岩は結晶が面状に配列してできた「片理」という構造をもちます。これは海底堆積物などがプレートの運動によって地下約20～30kmに引きずり込まれた際に、強い圧力によってできました。片岩は特徴的に含まれる鉱物の名前を頭につけて〇〇片岩と呼びます(例えば、石墨片岩や紅簾石片岩など)。埼玉県では、古墳時代の古墳の石室や中世の板碑などに利用されてきました。石材としてなじみの深い岩石です。

## 埼玉県の鉱物「スチルプノメレン」

「スチルプノメレン(スティルプノメレン)」は、



写真1 県の岩石・鉱物「スチルプノメレン片岩」

黒～褐色、針状の変成岩中に見られる鉱物です。博物館前の川原にある虎岩はスチルプノメレンを含む片岩です(写真1)。スチルプノメレンは、かつては外観が黒雲母と似ていることから、黒雲母とされたり、雲母より脆いことから脆雲母と呼ばれていました。しかし、昭和19年(1944)に小島博士によって、日本にスチルプノメレンが産出することが初めて明らかにされました。

## 埼玉県の化石「パレオパラドキシア」

「パレオパラドキシア」は、約2300万年～約1200万年前まで生きていた哺乳類です(写真2)。のり巻きに似たような歯が特徴的なことから、束柱目に分類されています。束柱目は、ゾウやマナティーに近いという考え方や、ウマやサイに近いという考え方がありますが、現在は似た骨格をもつ生き物がいないため、その生態についてはわかっていません。

埼玉県の秩父盆地ではこれまで2体の全身骨格を含む8標本が発見され、うち6標本が国の天然記念物に指定されています。

本展示では、埼玉県の県の石と関東の県の石について、パネルと標本で紹介します。この機会に、県の岩石・鉱物・化石に興味をもっていただければ幸いです。

(たかはし みおり・学芸員)



写真2 県の化石「パレオパラドキシア」骨格復元模型